

文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel (0776-82-1141) Fax (0776-82-2261)

【 斉藤新緑事務所】〒913-0001 福井県坂井市三国町池上103-36

【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp

【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

ほっとらいん

人に、まちに、いま、
元気の種をまこう。

VOL.90

税金は何に使うべきか

箱物・観光行政を検証する

「新緑さん、私は、新幹線も乗らんし、高速道路も走らんが、うちの村は、このままいくと絶えてしまうんやけど、どうしたらよいか」
唐突に手が挙がって質問がある。

「あくまでも新幹線や高速道路は手段に過ぎず、目的は村が栄え、いつまでも存続していくことです」と答えた。

▼何が手段で、何が目的か

かつては、「木を見て森を見ず」といわれたが、最近「枝を見て木を見ず」「葉を見て枝を見ず」、葉っぱは青々として生い茂り、さぞかし大きい実がなっていると思いきや小指のような実しかできていない。

幹から枝、枝から枝、枝葉が単独で目標を持ち、目標を達成しても、肝心の幹がやせ細っていくというのは、まさに本末転倒です。

その傾向に陥りやすい部局別課別事業別予算に対して、毎年、警鐘を鳴らし、総合行政の必要性を主張し、幹を太くするために枝があり、絵を完成するために部品があるということを強調してきました。

新幹線が走り、中部縦貫道は開通し、東西南北にゲートウェイができ、大交流時代を迎え観光客も増えた。

農業は農地集積も進み、効率化された。

教育も日本で、国公立大 学合格者も増えた。

しかし、童話にある「ハーメルンの笛吹き男」に、英語は話せても日本語を話せない子供たちが連れ去られ、村は滅び、そして誰もいなくなつたという事にならぬよう気をつけなければなりません。

▼厳しい財政見直し

県の来年度予算をみている

と、北陸新幹線の事業費は今年度と比し365億円の増加、中部縦貫自動車道の事業費は38億円の増加、工事が進むということ、大変喜ばしいことだが、これから本格的な工事が始まると県の負担はさらに増加していく。

国体の開催準備経費も8億円の増加、本番を含めて全体でいくらかかるのか、これまでの

平成27年 家計調査 (福井市)

主要家計指標 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

* 消費者物価総合指数(持家の帰属家賃を除く総合)

区分		※年平均		実収入	消費支出
				(円)	(円)
福井市	実数	平成	22	634,573	365,286
			27	547,036	295,374
		差		▲87,537	▲69,912

出典 (「家計調査結果」 (総務省統計局))

今、福井県は、計画的な財政運営すら難しい時代にあって、県の財政を取り巻く状況は、非常に厳しいと言わざるを得ない。また、総務省が実施している家計調査をみると、平成22年と平成27年の5年間の比較であるが、平成22年福井市の勤労世帯の消費支出の総額は約37万円だったが、平成27年には約30万円に減少している。世帯収入をみても、平成22年の約63万円から平成27年には55万円に減少してお

ん。箱モノは、建設の時に大きな費用負担が発生するが、もつと怖いのは、建てた後の維持管理費が半永久的に必要になってくることだ。人口が減少し、税収の増加が見込まれない中で、箱モノを建てれば、県民サービスの低下を招く。財政も破綻する。バブル全盛期を思い出させられるようなことをやっ、福井県は大丈夫か？

開催県の実績では、80億円程度になることなので、30年度は数十億円規模の予算になることが見込まれる。我が国共通の課題である福祉や医療など社会保障費の増加も当然、見込まれる。

恐竜や朝倉氏遺跡も良いが、福井県そのものが「化石」や「遺跡」にならぬように冷静に判断しなければなりません。

▼いつの時代の予算か

このような中、この数年來、県内のあちこちに箱モノを作るといふ景気のいい話が出てくる。第2恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡博物館、年稿施設、六呂師高原スキーパーク、来年からは、周遊滞在型の観光を進めるといふことで、市町村が行う箱モノ整備に補助金を出すとのこと。市町村まで箱モノ行政に巻き込むのか不安を覚える。

一方、収入をみると、県税は3%の減少、経済の先行きは依然として不透明ということ。借金である県債は13%の増加。将来の県民に大きな負担を残すことにならないか心配である。収入源として福井の強みであった原子力発電所は、先行きがはっきりしない。

平成29年度当初予算(案)に付帯決議

第2 恐竜博物館予算を凍結

県立観光地、県営観光業で、

福井県が「化石」や「遺跡」にならないか

▼予算執行を凍結した付帯決議

2月定例会は3月14日四千七百十八億円の一般会計当初予算案など六十七議案を可決し閉会した。しかし、議会は、第2恐竜博物館など構想すら提案されていない段階での、次の予算を承認はできず、予算執行を凍結とする付帯条件をつけました。

また、第2恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡博物館、年縮施設など大型施設に対する費用維持管理費が明らかにされておらず、県の財政計画も、平成30年までで、これらの財政見通しが明らかでないまま、「建設ありき」の議論は出来ない。従って、これらに要する費用、及び投資効果、財政見通しを明らかにするよう求め、付帯決議しました。

▼当初予算案を承認してきた積み重ねが、今日の福井県

毎年、当初予算が編成され、私たちは特に提案理由に問題がなければ、議案を承認してきました。その積み重ねが今日の福井県であり、その結果、果たして福井県は元気になるのでしょうか。未来を見据えた確固とした方針を持つていられるのでしょうか？

かつて、お堀の上(御本丸)に県庁や県警本部を建てた知事もいれば、郊外の田園地帯に県立音楽堂や県立図書館を建てた知事もいて、それに同意した議会がある。

政治家は次の時代を考え、政治屋は次の選挙を考える。政治家の評価は、棺を置いてこ定まる。

▼東京都の豊洲問題が連日報道されている。作為の罪と不作為の罪。その時、してはならないことをした罪、その時しなければならぬことをしなかった罪。

誰もが立派な人だ、いい人だといわれた。王子様やお姫様の役をしてみたい。誰も頼かむりして肥溜め担いで歩く通行人にはなりたくない。

しかし、長い年月の中で、バトンを渡された政治家の任務が、ひたすら肥やしを撒き続け、土作りをしなければならぬときもある。誰かがそれを引き受けなければ、いい作物はできない。

▼究極の選択○か×か

初当選した26年前、町議会に入れば町長や役場の職員らと議会が議論を重ね、町の政策を作る。政策立案に参加できると思いました。

しかし、議会に参加すると、政策とは課別事業別予算案のことであり、一方的に役所が作ったものに対して、議会は、究極の選択○か×かの二者択一が迫られ、保留という採決がないことに驚きました。

「町を元気にする」といつても、その手段と手法は大きな違いがあります。民間には競争原理がもちこまれますが、役所は独占企業です。従って、福井県の予算案も一つしかありません。

▼「議案に反対するよりも賛成するほうがよほど覚悟と勇気がいる」

私にも孫がいて今年「ひな祭り」の歌を聞かせてくれましたが、その孫たちに実になる予算なのか、将来、お荷物になり禍根を残すことになるのか、県議会は県民の最終の意思決定機関であり、その判断を誤れば県民やあとから来るものたちの背任行為ではないか、真剣に考えれば考えるほど苦しくなります。そう思うと、判断する議会の方が責任重大で、提案者の方が責任が軽く思えてきます。どこまで、しっかりと足元を

見詰め、深く掘り下げ、将来を見つめた提案なのか不安になります。

県議会議員36名中25名が所属する県会自民党派は、全体の3分の2を占める最大党派です。

自分たちが賛成すれば、県民の意思が賛成、反対すれば反対ということになります。たまたま、現在、私は、その党派の会長の任にあり、孫末代の責任を感じることがあります。

議案に賛成することが、どれだけ重い責任を持つことになるのか痛切に感じます。

私たち議会には、予算の修正権、否決権はあっても、予算の提案権はありません。

提案された議案に対して議論をする、させられるだけでは、その提案の領域をこえられません。しかし、自分だったら、党派

だったら、今日の情勢を踏まえどんな予算を組むだろうか、と考えることはできません。すると、随分様相が違ったものになってきます。

▼もう一つの予算案

知事が提案する予算案に対し、私たちが考える予算案を県民に示し、どちらが良いか判断してもらおうとすれば、私ならどんな予算を組むのか。来年度予算、ゼロベースで考えて見ますと、まず、根本的なことは、県民にとりて、福井県に住んでいけば、「ゆりかご」から墓場まで安心して暮らせるように守ってくれる」ということでしょうか。

その上で、県が県職員を雇って事業を展開したほうが良いのか、直接、県民にお金が届くようにした方が良いのか、考えてしまいます。

政府が金融緩和といっても街角の銀行窓口で止まり、貸

し付けを通してしか市場にお金が出ません。県の事業展開によるものも限定されます。差社会が広がり貧困家庭も増えていることから、国の制度の不十分さを補う最低生活保障を行うこと。

加えて、県産品の箸や漆器などを使用すれば、その市場も確保できる。

学校給食は「食育だと明確に位置づけ、学校給食を無料化し、食における教育を徹底する。

家計の収入が減り、消費支出が減少している状況を考えれば、県内経済の活性化、県内消費拡大につなげるために、県民に直接、現金を配ること（ヘリコプターマネー）や最低生活保障をする（ベーシックインカム）の「博物館を建てるの」とどちらが効果的か。

そこで、「藩札」というのがありましたが、福井県内では通用しない地域通貨あるいは商品券を発行し、一人当たり百万円ずつ配る。有効期限1年で使い切るといった仕組みや第一次産業に対する直接所得保障や商工業に対する補助金、住宅補助金などが考えられます。

グローバル化による競争原理、金持ち優遇制度による格

子育て支援という面で、「医療費無料化」などがあります。これは安易な病院通い、薬依存、医療費増など問題も多い。ならば、18歳まで子供の数に応じて、所得保障を行う。

しかし、より総合的に考えるならば、全量地産地消による学校給食無料化が良いと思える。

現在、学校給食の食材費は父兄が全額負担している。その金額は、市町によって違いはあるが一月一人当たり4千円前後となっている。これらを福井県全体で合計すると約30億円となる。

100%県内農産物、魚産物の地産地消による給食となれば、農業・漁業分野で30億円

給食費を払えない家庭も救済できる。家計の負担も軽減できる。

地産地消で食育、学校給食無料化の旗印を打ち立てれば、県外からの移住者増にもつながる。

県費を30億円使っても、すべて福井県内でお金が回り、県内消費を拡大させる有効な税金の使い道だと思える。

観光という今や花形で、地域の閉塞感を観光で乗り越えようと日本中がわいて猫も杓子も草木もなびくようなムードがあり、議員も観光さえ言っていればよいような感じがあります。

しかし、全国各地、魅力度ラシキングなどといわれ、観光ビジネスに仕掛けられ、煽られどへ行っても同じように踊らされているようにも思えます。

とりわけ、観光行政は昔からコンサルタントや観光カリスマ、プランナー、〇〇大学の〇〇先生、イベント屋、或いは旅行代理店など「政策を売り歩く人々」がいて、その人たちが

観光行政は、気をつけなければならない。

毎年、広告宣伝を行い、イベントを企画する。

当然、収益源のマスコミも太鼓をたたき、表向き、派手さもあり、あたかも観光が人口減少で疲弊した社会を救ってくれ、福井の閉塞感を全て解決してくれるようなイメージを持たせて大きな投資に突き進んでいく、これは非常に危険で、実は

観光行政の問題点

観光という今や花形で、地域の閉塞感を観光で乗り越えようと日本中がわいて猫も杓子も草木もなびくようなムードがあり、議員も観光さえ言っていればよいような感じがあります。

しかし、全国各地、魅力度ラシキングなどといわれ、観光ビジネスに仕掛けられ、煽られどへ行っても同じように踊らされているようにも思えます。

とりわけ、観光行政は昔からコンサルタントや観光カリスマ、プランナー、〇〇大学の〇〇先生、イベント屋、或いは旅行代理店など「政策を売り歩く人々」がいて、その人たちが

観光行政は、気をつけなければならない。

毎年、広告宣伝を行い、イベントを企画する。

当然、収益源のマスコミも太鼓をたたき、表向き、派手さもあり、あたかも観光が人口減少で疲弊した社会を救ってくれ、福井の閉塞感を全て解決してくれるようなイメージを持たせて大きな投資に突き進んでいく、これは非常に危険で、実は

「博物館」を建てるのか、100%県内農産物使用で「学校給食無料化にするのか」

作る発想がわかりません。民間企業であれば、総務部、業務部、営業部という組織図になります。

観光は地域・産業と密着し、裾野が広がらなければ意味がないし、単独で成り立つものではありません。

「観光」というのは農林水産業から教育・福祉・産業あらゆる分野のなかにあり、観光だけを切り取れば、それだけが独り歩きし、ゆがんだ行政となり、行政目的から遠ざかることになります。

平成21年に観光営業部ができるまでは、観光行政は産業労働部所管でした。

ですから、経営がうまくいかなくならた旅館の再生は、観光とセプトで産業労働部が一体的にやっていました。しかし、今は、観光業者支援は産業労働部、観光誘客は観光営業部と観光行政を二つに分断されています。

無理に観光分野の営業部門だけを切り取って、「一部設置したため、いびつな縦割り細分化がひどくなって、県と民間との連携が悪くなったといえます。

大型「箱モノ」観光地づくりは危険

字)を積み重ねて、平然ととしています。

恐竜王国福井、「恐竜ブランド」として、採算度外視で、お構いなしに集中してお金を突っ込めば、観光客が増えて当たり前です。

民間でも、入場者を増やすことだけを考えれば良いのなら、いろんな手立てを講じれば難しいことではありません。しかし、いくらお客様が多くなって、利益が出なければ、倒産してしまうから、損益分岐点を見極め、身を斬るような努力をするのです。ですから、回収できない投資はしないのです。

▼「外貨獲得部に変更せよ」 県立観光地「恐竜博物館」を建設し、「観光営業部」を設置して、県営観光業を開業し、口を開けば「恐竜」として、広告宣伝、セールスをやっていた成果はどうだったのでしょうか。観光客が増えなくても福井県でお金を使ってももらえなければ、交通渋滞や騒音、ゴミを残していくだけです。

▼「人のフンドシで相撲をとる加賀温泉」 加賀温泉宿泊観光客に「永平寺行き」のバスに優待券を出すようですが、福井県の観光地を利用して、宿泊・観光消費は加賀温泉と

行き先は、福井県の観光地（永平寺、東尋坊、恐竜博物館、朝倉氏遺跡）、宿泊は加賀温泉。あわせて拙速な行動は、将来禍根を残すものになりかねません。

巨額の投資をして県立観光地づくりに精を出し、石川県がその果実を食べるのでは何をしているのかわかりません。現に、恐竜博物館開館以前より福井県の観光客入込数は37%増となっていますが、観光宿泊者数は、1%減となっています。

▼なぜ、急ぐのか。大型箱モノ建設ラッシュなのか。

▼世の中には、有識者としての大学教授やプランナー、コンサルなど政策を売り歩く人々も多数おられる。その結果、地方創生もまちづくりもどこへ行っても同じようなものが出来る。そ

矢継ぎ早に計画されてきて、お金は、すべて中央に吸い取られていく。

県庁内と有識者などで一方的に作られ、県議会はもとより県民のアイデアを募集したり、オープンに時間をかけて検討する機会が全くない。いくつものアイデア、いくつものプランを時間をかけて検討しなければ良いモノはできない。

知事の選挙のマニフェストに書いてあったから県民に承認されたなどと思うのは傲慢すぎる。

議会との齟齬は、全てこの政策決定過程の不透明さにあると言ってよい。

この間、観光営業部にまつわるトラブルが多い。知らぬ間に予算が変更されていたり、内々に物事が進んでいたりと、一方的な思い込みが強すぎる。

▼「遺跡や「化石」を発掘しては、展示場が狭くなったと、第二恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡博物館を建てる、水月湖の底に「年縞」が見つかったから水月湖の年縞研究展示施設を建てる。というのが、まさにバブル最盛期、スポーツといえば体育館、運動公園、文化といえば音楽ホールを建てた箱モノ行政の再来ではないか。

その借金、維持管理費に対応できずに市町村合併まで余儀なくされてきたことを忘れたのでしようか。

こんなことをしていると福井県そのものが「化石や「遺跡」になりかねません。

今、何をなすべきか、孫の時代に責任を持つる政策をつくるために、議会として心血を注いで行きたいと思えます。

中長期財政計画、投資効果を示せ

ぎて、危なっかしくて見えない。これでは、共倒れ、近隣窮乏化政策となるから、スキー場にこだわらず、「牧歌の里」や「モクモクファーム」などゼロベースで六呂師全体の活性化を考えるべきだと指摘してきましたが全く検討されていません。

▼六呂師高原スキーパークの人工ゲレンデに関しても同様である。

大野市の隣、郡上市のウィングヒルズ白鳥リゾートには、世界最大級の人工ゲレンデが以前から営業している。

六呂師と白鳥の直線距離は約20km、移動距離でも50km弱雪がないシーズンだと1時間圏内である。

白鳥のスキー場は、スポーツ用品大手のアルペンが運営している。アルペンがスキー場を運営するのは、まさに本職のようなもの。

それに対して六呂師は自治体が運営する手法で本当に大丈夫なのか。

スキー場は近隣に「雁が原」や「ジャム」があり、かつて民間が失敗した六呂師スキー場を県がつくり、大野市が運営して成功するとは思えない。

孫の手紙 (8)

自然治癒力

「あかりをつけましょ ぼんぼりに お花をあげましょ 桃の花」今年、ひな祭りの歌を聞かせてくれました。

お風呂場から裸で走ってきた、「爺にオムツはけるようになって、」の姿を見てあげて」とい

う婆の声に、オムツの前を引っぱたり後ろをひっぱたり、お尻をくねくねさせながら、上手にはけるのを見せてくれました。爺はママではないので、ビデオをまわしたりしないけど、その光景はどんなにお前が大きくなっても忘れないでしょう。

でも、一足先に、小屋の2匹のウサギからは、11匹もの赤ちゃんが生まれ、元気に飛び回っています。

うさぎは、生まれて4カ月余りで、子供を産みます。わらわを集めたり、毛を集めたりして子供を産む場所を作ります。

うさぎは自分の毛をむしって毛布を作ってその中に子供を産みます。

うさぎは、生まれて4カ月余りで、子供を産みます。わらわを集めたり、毛を集めたりして子供を産む場所を作ります。

間に立春、立夏、立秋、立冬を

お母さんのお腹も大きくなって、4月になるとお姉ちゃんになります。

でも、ウサギはどうやって毛をむしるのだろうかと思いついたら、「お乳の周りの毛をむしって子供が乳を飲みやすくするのだ」と小学校のときウサギの飼育係をしていたとい

うおじさんが教えてくれました。お外も暖かくなってきたので、爺は、早くかわいい子ウサギを抱っこしにきて一緒に遊んだらいいのと思っています。

風邪を引いたら「栄養を取れ」といわれますが、本当は、消化に余計なエネルギーを使わず、「水分を取って、暖かくして寝る」が一番だと思います。

熱を出したり、鼻水を出したり、咳を出したりするのは、自分の免疫力を上げて「ばい菌」と闘っているからであり、その自分の免疫力（自然治癒力）を解熱剤や咳止めで、無理やり抑えて、良いはずはありません。

最近、きれいなビルケースに市販薬を入れて持ち歩く若い女性が増えていて、薬がファクションの一部にもなってきたようです。こうした薬の飲み方を「カジュアル飲み」というそうです。

「三寒四温」「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、これから、どんどん日が長くなり、暖かくなり、お花がいつぱい咲く季節となります。

でもウサギはどうやって毛をむしるのだろうかと思いついたら、「お乳の周りの毛をむしって子供が乳を飲みやすくするのだ」と小学校のときウサギの飼育係をしていたとい

うおじさんが教えてくれました。お外も暖かくなってきたので、爺は、早くかわいい子ウサギを抱っこしにきて一緒に遊んだらいいのと思っています。

風邪を引いたら「栄養を取れ」といわれますが、本当は、消化に余計なエネルギーを使わず、「水分を取って、暖かくして寝る」が一番だと思います。

左のグラフは年齢層別の医療費伸び率を見たものですが、14歳未満の伸び率が75歳以上の伸び率より高いことがわかります。

種類が増えていく」「副作用が現れ、それに対処する薬が加わる」「身体を壊す」という過程で進んでいきます。

病気には、「自分の身体に備わった自然治癒力で治すべき領域」と、「医療の力を借りて治すべき領域」があります。

飾ってあった雛人形も片付いて、庭の枝垂れの梅の花が咲き、今日は春分の日（春のお彼岸、暦の上では大きな節目の日です）。

日本の季節は一番日の長い夏至と一番短い冬至、その間の昼と夜の長さが同じになる日（春分と秋分をおいて、1年を大きく4つに分け、その

熱を出したり、鼻水を出したり、咳を出したりするのは、自分の免疫力を上げて「ばい菌」と闘っているからであり、その自分の免疫力（自然治癒力）を解熱剤や咳止めで、無理やり抑えて、良いはずはありません。

この原因は、首長選挙のたびに小児医療費の助成対象年齢が引き上げられた（小学校入学前までだったものが中学生卒業まで）ことにあります。

小児医療費が無償になってくる自治体で、コンビニ受診と言われる unnecessary 受診が増えているとの指摘があります。

カジュアル飲みは、副作用の認識の低さの表れです。それは、幼い頃からの経験によって築かれたものなのでしよう。

薬をすぐに飲ませる親に育てられた子は、大人になって薬好き、病院好きになる傾向があります。

「風邪を引く」というのは、キヤッチ・ア・コールドとい

て、「体が冷えをつかまえる」と表現するように、体を暖かくして、家で寝ていて治すものとなっています。

風邪を引いたら「栄養を取れ」といわれますが、本当は、消化に余計なエネルギーを使わず、「水分を取って、暖かくして寝る」が一番だと思います。

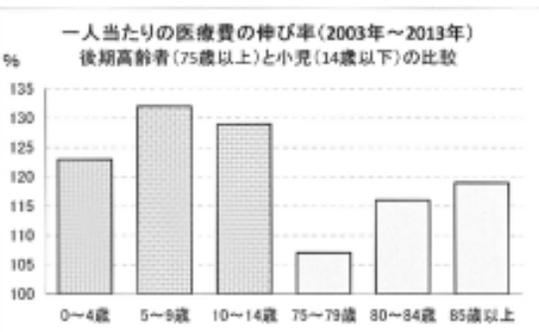
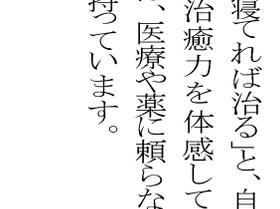
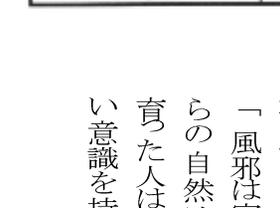
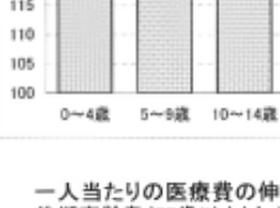
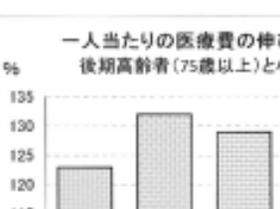
左のグラフは年齢層別の医療費伸び率を見たものですが、14歳未満の伸び率が75歳以上の伸び率より高いことがわかります。

種類が増えていく」「副作用が現れ、それに対処する薬が加わる」「身体を壊す」という過程で進んでいきます。

病気には、「自分の身体に備わった自然治癒力で治すべき領域」と、「医療の力を借りて治すべき領域」があります。

風邪は自然治癒力で治すべき病気です。そのことを子どものうちから風邪を通して経験することは、生涯を通して健康な身体を築くうえでとても大事です。

「風邪は寝れば治ると、自然の自然治癒力を体感して育った人は、医療や薬に頼らない意識を持っています。」



一人当たりの医療費の伸び率(2003年~2013年) 後期高齢者(75歳以上)と小児(14歳以下)の比較

年齢	伸び率(2003年=100)
0~4	123%
5~9	132%
10~14	129%
75~79	107%
80~84	116%
85以上	119%

心に太陽を持って

山本有三

心に太陽を持って。
あらしが ふこうと、
ふぶきが こようと、
天には黒くも、
地には争いが絶えなかりと、
いつも、心に太陽を持って。

くちびるに歌を持って、
軽く、ほがらかに。
自分のつとめ、
自分のくらしに、
よしや苦勞が絶えなかりと、
いつも、くちびるに歌を持って。
苦しんでいる人、
なやんでいる人には、
こう、はげましてやろ
う。
「勇気を失うな。
くちびるに歌を持って。
心に太陽を持って。」



「今日という日は、一年に一回しかない。今年の今日は一生のうち一回しかない」

映画評論家の淀川長治は、目覚めた床の中で、まずその日の日付を言ってから、毎朝そんなふうに関心に言い聞かせたという。

一日一日を大切にしてお事に接する。どんなにつまらない映画でも、光るものを見つけて褒める優しい目を培い、その心が審美眼に繋がったといわれる。

▼「お前は映画ばかり観て、ちつとも勉強せん。算数もつと勉強しろ」、中学生になるとますます映画館に行くことが多くなった淀川長治少年を数学の先生が叱った。

淀川少年は「はい」と答える代わりに、「それは無理。先生こそ今やっている『ステラ・ダラス』をご覧なさいよ」と言い返した。

勧められたその若い先生は、同僚二人を誘ってすぐ観に行つて、次の日、「いい映画だったよ」と淀川少年に伝えたという。

この先生たちも偉い。

▼女優、岸田今日子は不登校児だったようで、不登校のまま夏休みになり二学期を迎えた朝、「みんなも夏休み

で、お休みしていたから大丈夫」と母親に励まされ、いやいやながら学校に行った。

しかし、宿題をしておらず、そのまま先生に提出すると、「楽しいことがたくさんあるり過ぎて、宿題をする暇がなかったのかな」、先生は笑いながら、白紙の絵日記に大きな

○を書いてくれたという。感激した今日子さんは、先生と学校が好きになり、それ以来、不登校をやめた。

この話には、後日談がある。女優になった今日子さんが先生と再会したとき、「先生のおかげで、私は卒業でき生はキョトンとして「あれは〇じゃないよ。零点という意味味：」

二人は大笑いしたという。淡屋のり子は阿波屋という津軽の呉服屋の娘。ステージで泣いたのは一度。鹿児島県知覧で、歌っている最中、特攻隊の学生が立ち上がり、一人一人深く頭を下げて会場を去って行った時。

「永六輔の伝言」には沢山の芸能人とのエピソードが書かれてある。

「馴れ合いと仲良しごっけ」

フランス座というのは、戦前から浅草にあったストリップ劇場。「むきあつて、同じお茶すす

新緑の気ままにトク

「ポリと不良」
俳号は「風天」、句会に誘ったのは永六輔。

▼「今の歌手は、歌屋に過ぎない人が多い。歌手ではなくカス」。

慰問に出かけ英語で歌い、軍部ににらまれ、さらに派手な化粧や衣装を自粛しろと注意を受けると、「プロの歌手にとつて、舞台衣装は戦闘服です」とはねつけた。

「型に入り、型を破る」
「型に入る」と

は、別の表現をすれば、二等辺三角形の「底辺」を広げる努力である。つまり、ただ単に「高さを出すこと」のみを考える

「創造」につながる。



▼「心に太陽を持って」は、山本有三が、「とつておきの良い話」として、まとめた短編集である。

その中に収めてある、長野県飯田中学校のりんごの木を植えたお話（現在のアップルロード）は、何回読んでも感動で涙がでてしまう。

▼「今日という日は、わが一生で今日しかない」、還暦も過ぎ、私も一日一日を大切に生きようと淀川長治をまねてみたものの三日坊主、せめて、母親がやっていたように自分の父母の月命日は精進しようと思つてはみたのだが、今日は何日？一月去ぬる、二月逃げる、三月去る。

「型」に学び、先人の「型」に入る必要がある。

達人の良さをしっかりと身につけながら、今度はそれを越えていく努力をすることが「創造」につながる。

「創造」すること、あるいは「自分の型を持つ」ということにおいて必要なことは「思想や価値観や志を常に探求求め、持ち続けようと努力すること、このことが、実は「型に入り、型を破る」うえで最も大切なことだ。

日本画の平山郁夫が書いた「生かされて生きる」という本に書かれてある。

春休み、持っている人たちに読んで欲しい本だが、発行が春休みに間に合いそうにないことがふがいない。

花の色はうつりにけりない
たづらに我が身世にふるなが
めせしまに（小野小町）